

質問日	令和4年6月10日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	4	会派名	自由民主党浜松	議席番号	13	氏名	小野田 康弘
表 題	質 問 内 容					答弁者の職名	
1 タブレット型端末について	<p>G I G Aスクール構想により、一昨年から進めていたタブレット型端末の1人1台整備が完了し、学校現場では、日々の学習の中でタブレット型端末を活用していると聞いている。また、コロナ禍においても学級閉鎖時などは、学びの機会の保障として、タブレット型端末を活用し、ビデオ会議システムを用いた授業配信や課題配信を行うなどの対応を行っているとも聞いている。</p> <p>このように日常的に活用が進むということは、端末機器に触れる機会も増え、持ち運び中の落下などの事故で端末自体の破損も多くなってくると想定され、当然修理を伴う場合においては、学びの機会の保障の観点から代替機などの準備も必要と考える。また、そもそも機器の破損事故を起こさないためには、「機器を大切に扱う心構え」が必要であり、利用するには「取扱いを含めたモラルに関する教育」が重要となってくる。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 昨年度におけるタブレット型端末の修理状況について伺う。</p> <p>(2) タブレット型端末の取扱いを含めたモラル教育の取組状況について伺う。</p>					田中学校教育 部長	
2 伊場遺跡の整備方針について	<p>浜松市文化財保存活用地域計画が、令和3年に国の認定を受け策定された。本計画では本市における文化財の特徴をまとめるとともに、未指定物件を含めた文化財の保存と活用の方針と今後実施する具体的事業を定め、歴史・文化・自然を生かしたまちづくりを進めることを目的としている。</p> <p>本市の伊場遺跡は、1949年(昭和24年)に先の太平洋戦争中に連合国軍の艦砲射撃によってできた大穴から弥生土器が出土し、遺跡があることが判明、発掘調査が行われ弥生時代の遺構・遺物が発見された。それ以降の調査により弥生時代、古墳時代の集落のほか、飛鳥時代から奈良時代にかけての木簡など重要な遺物が出土している。</p> <p>現在の伊場遺跡は、平成23年に資料館が閉館し、建物も解体されて、復元家屋が建つ遺跡公園となっている。また、伊場遺跡公園の北側には、明治初期に浜名湖につながる水路として掘削してできた堀留運河もあり、歴史的な背景を持つ地域となっている。そして、浜松市文化財保存活用地域計画が策定されたことにより、伊場遺跡及び堀留運河の再整備に期待をしているところでもあ</p>					嶋野文化振興 担当部長	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>る。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 浜松市文化財保存活用地域計画では、蜷塚・伊場遺跡再生プロジェクトが計画されているが、今後の方向性について伺う。</p> <p>(2) 明治初期に水運による物流の核となり、また浜松の繁栄を支えた堀留運河の歴史的価値をどう捉えているか伺う。</p>	
<p>3 浜松市緑の基本計画の推進について</p>	<p>令和3年に「みどりによって持続的に発展するまち・浜松」「みどり生活を愉しみ、暮らしもまちも豊かな浜松へ」の実現を目指し、緑の基本計画が策定された。本計画策定に向けた市民意識アンケート調査では、身近な場所に緑が多いと思う人は65.6%と高い割合となっている一方、公共施設には、自宅等で取り組んでみたい参考にしたい植栽や花壇などが多いと思う割合は18.3%、あまり思わない・全く思わないが54.7%となっている。この結果、公共施設においては、市民にとって魅力のある緑化になっていないと思われる。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) みどりに対する市民意識の中で、公共施設の緑化が市民にとって魅力のある緑化になっていない課題をどのように捉えているか伺う。</p> <p>(2) 緑の基本計画において、公共施設の緑化推進の目指す方向性について伺う。</p>	<p>奥井花みどり 担当部長</p>
<p>4 浜松市街路樹再整備方針について</p> <p>5 道路施設ユニバーサルデザイン指針について</p>	<p>浜松市街路樹再整備方針では、道路に植栽されている街路樹に対し、本市の現状と課題、基本的な整備の方針が示されている。昨今、全国的に高木による倒木被害も散見され、また本市の街路樹の管理状況を見ると、強剪定などにより樹木本来の樹形が見られなくなっている。</p> <p>そこで、街路樹における高木への対応、及び剪定の方法を含む育成の考え方について伺う。</p> <p>第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画「U・ゆうプランⅢ」が策定され、「思いやりの心が結ぶ優しいまち」を基本理念に今後5年間の方針が示された。また、基本目標のくらしでは、「未来まで続く安全・安心な“まち”」を掲げている。</p> <p>本市の道路施設ユニバーサルデザイン指針は平成21年に策定されている。本指針では、車道・歩道・安全施設などの指針が示されているが、歩道に関しては、車椅子同士がすれ違いができる2メートル以上の歩道のみ指針であり、狭い歩道に関しては指針がない状態である。また、歩道が狭いバス停留所において、全ての人がバスを円滑に利用できていない箇所が見受けられる。</p>	<p>伏木土木部長</p> <p>伏木土木部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 本指針は、平成21年に策定されてから改訂されていないと考えるが、指針の見直しについて伺う。</p> <p>(2) 歩道が狭いバス停留所において、歩道整備の方向性について伺う。</p>	
<p>6 消防団の震災活動指針について</p>	<p>本市の消防団の震災活動指針は、「平時の備え」「南海トラフ臨時情報への対応」「突発型への対応」と3章に分けられ、地震災害時における大綱的な消防団の震災行動を定めている。この指針に沿って消防団としては、「広報・情報収集」「火災防御」「救助・救護」などの活動が想定されているが、災害発生時に消防団が活動するには、本指針が消防団員の末端まで浸透し事前準備や想定訓練が必要と考える。</p> <p>また、具体的な活動内容は本指針に基づき、各々の地域性を考慮して定めることとされている。地域性により、さらに効果的な活動が期待される場合には本指針によらず規定することができることから、各支団で地域性を考慮した想定訓練などの活動が必要と考える。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 消防団として、本指針に基づいた図上訓練や消防団員招集訓練などの訓練状況を伺う。</p> <p>(2) 本指針に基づいた災害活動を行う上で、時系列に示したマニュアルなどがあると、想定訓練や災害発生時の対応が迅速にできると思われるが、これらを作成する考えはあるか伺う。</p>	<p>猪又消防長</p>
<p>7 消防団員の私用車の公務使用について</p>	<p>国の「消防団員の処遇等に関する検討会」の中間報告を踏まえ、消防団員の処遇改善を推進するため、本市においても、令和4年度から出動手当が費用弁償から報酬に変わり、手当が増額された。</p> <p>また、「浜松市消防団員の私用車の公務使用に関する要綱」が令和4年4月から適用されている。特別職である消防団員が訓練及び災害活動の公務に赴くには、公用車である消防自動車または、消防自動車に乗れない団員は、私用車で赴かなければならず、また活動の準備や片付けには団員の私用車を使っている状況でもある。</p> <p>今回の要綱の適用は、処遇改善の一環と捉えているが、要綱の用語の定義では「出張」「旅行命令権者」など「浜松市職員の旅費に関する条例」に規定されている言葉遣いであるため、消防団活動における適用範囲が分かりにくくなっていると考ええる。</p> <p>そこで、この要綱の団員への周知の状況、及び運用には分かりやすい適用手引などの作成が必要と考えるが今後の取組について伺う。</p>	<p>猪又消防長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>8 災害ボランティアについて</p>	<p>災害時のボランティアセンターの運営は、浜松市社会福祉協議会が行うことになっているが、行政との連携は非常に大事である。令和2年以降、新型コロナウイルス感染拡大により、災害発生時のボランティア活動にも大きな影響が及んでいると考えられる。</p> <p>令和2年7月に発生した熊本豪雨災害では、コロナ感染拡大を未然に防ぐため、県内在住者に限定しボランティアを募っていたことから、被災家屋の片付けを担うボランティアが不足していたと聞いている。</p> <p>そこで、浜松市社会福祉協議会において新型コロナウイルス感染拡大以降、災害ボランティアセンターの運営の方針に変更があったか、また、行政と社会福祉協議会との連携はどうか伺う。</p>	<p>山下健康福祉部長</p>